

6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校は「質実剛健」「自主自律」の校風のもと、生徒の進路実現を着実に図るとともに、社会の発展に積極的に寄与していこうとするリーダーとしての資質や能力を高め、未来を切りひらく人間力を備えた「ふるさとに誇りと愛着をもったグローバル・リーダーの育成」に取り組んでいる。課題研究や体験活動を系統的に取り入れ、思考力や判断力、コミュニケーション能力の伸長を図るとともに、生徒の優れた能力を引き出し、主体的に学校生活を過ごすことができるよう、5つのアクションプランを定めて教育活動を行ってきた。

従来から行っていた探究科学科の生徒による三校合同課題研究発表会（富山高校・富山中部高校と本校が合同で開催する）に加え、昨年度に引き続き、2学年普通科生徒もグループで課題研究に取り組み、12月には校内発表会を行った。これまで積み重ねてきた探究科学科での指導を、普通科においても、生徒の実態に合わせて効果的に行うことができた。

各重点項目の取り組み状況は、以下のとおりである。

教員の教科指導力向上に向けての取り組みは、従来から行っている校内互見授業においては、評価の観点を明確にしたチェックシートを用いることで授業改善の指標とした。また、1年生からは新教育課程となり、観点別評価が導入されたことから、評価を円滑に実施するため校内研修を行い、学校全体として組織的かつ計画的に取り組んだ。

進路支援では、生徒の学習に対する動機付けの一環として、以前から地域の社会人や本校卒業生の協力のもとに職業理解講座、大学学部学科紹介等を実施していた。また、どの学年においても、時期に応じて担任による面談を丁寧に行うとともに、面談内容がより生徒に適したものになるよう、校内で入試問題研究会等を行い教員の指導力向上を図っている。

学校生活では、家庭環境の多様化により様々な特性を持つ生徒が増加しており、またコロナ禍の影響もあり学校不適応傾向を示す生徒も増加傾向にある。学年・関係分掌と連携をとり、情報共有や対応策の検討を進めるとともに、カウンセリングによる継続的な支援や外部機関との連携を密に行った。

特別活動においては、感染対策は継続しつつもほぼ従来の活動ができるようになり、かなり満足のいくものになったことが生徒へのアンケート結果から読み取れる。図書委員会の活動では、従来から行っている文化講座やビブリオバトルを開催することができた。また、生徒図書委員会による広報活動により、図書の貸出冊数が増加した。

課題研究への取り組みは、大学や外部機関の協力が生徒の積極的な活動の支えとなっている。昨年に引き続き海外派遣が中止になったことから、代替としてエンパワーメントプログラムを実施し、グローバルリーダーについて考えることができた。体育大会は保護者の入場制限をかけたことから、PTAが中心となり、後日、動画配信を行った。

7 次年度へ向けての課題と方策

学習に関しては、生徒に学ぶ意義や自主的な取り組みの必要性、探究の手法を理解させるとともに、教科書に示された内容や問題だけでなく、答えのない課題に立ち向かい解決していこうとする姿勢を身につけさせ、未来を切りひらくリーダーの育成に努めたい。また、「生徒1人1台タブレット」を活用し、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう、今後も、互見授業や研修会により授業改善に向けて全校体制で取り組むとともに、個々の生徒に応じた指導、進路支援につなげたい。

学校生活では、基本的な生活習慣の確立及び規範意識の向上に今後も取り組むとともに、様々な特性や悩みを持つ生徒に対応できる体制づくりに努めたい。

特別活動では、部活動・学校行事の生徒の満足度を維持するとともに、ホームルーム活動の活性化を進めていきたい。

探究活動については、大学や外部機関との連携を密にし、実践成果を外部に発信する機会を確保することで、生徒の意欲をさらに高めたい。

以上、今年度の取組全体については、学校評議員を含め、校内外の意見を参考に、生徒の自主性を引き出すために何が必要か考え、校内でさらに検討を加えながら教員間で課題の共有化を図り、指導を工夫することが必要と考えている。

8 学校アクションプラン

令和4年度 高岡高校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学習活動	
重点課題	自律的で主体的な学習者を育むための学習指導	
現 状	・これまで本校の生徒は、授業を大切にし、与えられた課題にきちんと取り組む姿勢が見られた。しかし近年、学習習慣が十分に身につけていない生徒が増えているという声がきかれる。また、積極的に質問を行い、納得いくまで理解しようとする姿勢の生徒が減っているとの声もある。変化の激しいと予想されるこれからの社会で活躍するためには、自律的、主体性に、他と協働して物事に取り組む姿勢がますます重要になる。一方で教員側も、変化する現在の生徒に適合した指導方法を研究することが求められている。令和3年度より教員・生徒に一人1台タブレットが貸与され、学習活動に有効に活用されている。また、令和4年度からは無線LAN設置エリアも増え、さらにICT機器を効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びを担保する指導方法を、研究実施することが大切である。	
達成目標	①②学習課題への取組	③④情報機器の有効活用
	①計画的な学習と振り返りを習慣としている生徒 80%以上 ②疑問点は友人や先生に質問して理解をした生徒 80%以上	③各教員の授業におけるタブレットの恒常的な活用 70%以上 ④生徒の学習や学校生活におけるタブレットの有効活用率 80%以上
方 策	・学習時間調査を行い、学習意識を高めさせるとともに、生徒の取り組み状況を分析する。その結果をふまえ、担任・教科担当者等による面接指導をすすめ、学習意欲を喚起させる。 ・互見授業を2学期に行う。総合的な探究の時間や課題研究、ICTを活用する授業などの実施時間及び使用教室を全教員に案内し参加率を上げる。 ・「互見授業」実施後、各教員が得られた「効果的な授業」のポイント、学ぶ意義や学び方に関する指導上の工夫について、意見の集約と共有化を行い指導に活用する。 ・観点別学習状況の評価を円滑に実施するために校内研修を行い、学校全体として組織的かつ計画的な取り組みを進めていく。 ・教員の授業におけるタブレット利用では、活用例などをあげてより活用しやすいように働きかける。 ・生徒のタブレット利用については、共有フォルダの使用を活用し、学習活動やHR活動あるいは連絡ツールとして恒常的に扱えるよう指導する。	
達 成 度	①計画的な学習習慣が身についている。 61% (1年45%、2年61%、3年77%) ②疑問点は友人や先生に質問し解決している。 82% (1年81%、2年77%、3年88%)	③各教員の授業における恒常的な活用 97.3% ④生徒の学習や学校生活におけるタブレット有効活用率 授業での個々利用 73% 総合・HR・課題研究での利用 72% 授業以外での利用 78%
具体的な取組状況	・各学年で学習時間調査を行い、時間確保と計画性の大切さを意識させた。 ・「グーグルクラスルーム」を通じて、各学年・各教科から学習案内や教材配布を行うことを通じて、自主的な取り組みの支援を行った。	・生徒のタブレットについては、教員は授業において積極的に活用している。その他、総合的な探究の時間や課題研究で検索や資料作成、各種アンケート、学校からの連絡等に活用した。
評 価	C	③ A ④ C
	・予習の習慣づけはなされているが、復習が定着していない傾向にある。	・恒常的なタブレットの使用が定着してきたが、素晴らしくよいツールには至っていない。
学校関係者の意見	定員が1学級減ることは大きな変化。本校のスクースポリシーを基盤に、より質の高い教育実践に取り組んでほしい。	
次年度へ向けての課題	・学習評価や面接指導等の充実を図る。生徒自身が学習の目標や進め方を客観的に確かめたり、自分の課題を分析して学習の進め方を見直したりできるようにサポートする。	・本年度は一人一台タブレット導入2年目で、活用が定着してきた。次年度も本校の教育目標達成に向け、より有効なタブレット活用を行っていきたい。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和4年度 高岡高校アクションプラン - 2 -

重点項目	進路意識の高揚と進路希望の実現	
重点課題	高い志を持ち、第一志望校を最後まで諦めさせない進路指導の実現	
現 状	・本校生徒には、自己の能力や可能性を深く自覚しないまま、現段階での学力で入学できそうな大学を探してしまう傾向も見受けられる。生徒各個の適性と能力を伸ばす指導に取り組み、高い志と明確な目標を抱いて実社会におけるリーダーとなるよう働きかけていきたい。「高岡高校で学んで良かった」と生徒が実感できるような進路支援に全教職員で取り組んでいく必要がある。	
達成目標	①志望校合格率 (出願時の志望校合格者の割合)	②進路指導に対する満足度 (卒業時：3学年対象)
	①合格率 58%以上	② 満足度 70%以上
方 策	・学年集会や個人面談、外部講師による進路講話、また卒業生による職業理解講座等を通して、「大学の向こうにある社会」を意識させつつ将来の進路と高校の学習内容の関連を考察させる。 ・高い志望を貫いた先輩の体験談や、卒業生による大学学部学科紹介を通して、学習に対する姿勢や、大学での学問を深く知るための動機付けとする。 ・学習時間調査を通して自身の学習姿勢を振り返り、評価および改善を行い、取り組みを進化させる。 ・既卒生に対しても積極的かつ継続的に進路支援を行う。 ・校内模試や外部模試、前年度入試結果等の情報収集・分析を教員間で共有する。 ・大学入試問題研究や進路判定会議等の機会を活かし、よりよい進路支援について個々および集団で検討し、教科指導や進路指導につなげる。 ・学習時間調査結果を分析し、生徒の学習への取り組みを把握し、学力の伸長につながる助言指導等を行う。	
達 成 度	①志望校合格率 55.0%	②進路指導に対する満足度 68.1%
具体的な 取組状況	・1学年は職業理解講座、2学年は学部学科紹介を実施した。 ・授業に加えて、各教科の講座、個別添削指導等を生徒の志望に合わせて実施し、実力伸張に努めた。 ・学習時間調査をおよびその振り返りアンケートを行うことで、自律的な学習者となる意識付けを心がけた。 ・大学入試問題研究会、進路判定会議等を教員の研鑽の場として活用し、指導力向上を図った。 ・先進的な取り組みの高校を訪問し、教科・学年としての進路指導に反映させるべく取り組んでいる。	・3月上旬に3学年生徒を対象に、進路関連行事7項目を設定し、アンケート調査を行った。(回収率88.0%・Googleクラスルームにて回答) ・「とても役に立った」「役に立った」ものの上位として、 ①教科毎の3年次個別添削 82.7% ②合格体験記「大学への道」75.7%であった。
評 価	C	B
	国公立大学をはじめとして各自志望を高く持って出願し、第一志望校の合格を獲得する生徒も多く見られた。	昨年の結果から、進路関係行事の中でも本校の先輩や本校教員の取組が有効だと生徒が感じていることがわかった。
学校関係者の意見	大学進学に際し、どの大学に入学するのかわかりだけでなく卒業後の職業等も見据えた指導が大切。	
次年度へ向けての課題	「大学の向こうにある社会」を意識させながら、日々の学習とその集大成としての大学入試を通じ、自律的な学習者の育成に継続して努めたい。	本校で育った先輩による進路行事や教員による個別添削が生徒にとって有効になるように質の向上に努めたい。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	学校生活	
重点課題	・規範意識の高揚と安全意識の育成 ・学校生活への円滑な適応と心身の健康保持 ・学校環境の整備・充実と基本的な感染症対策の徹底	
現 状	・社会生活を営む上で重要な、基本的なマナー・規範意識を身につけずに来ている生徒が増えている。規範意識を高めることはもちろん、事故やトラブルを未然に回避し、安全に生活する力を高めていく取り組みが重要である。情報通信機器の利用に当たっての危険性についても指導するとともに他者を思いやる心を育て、いじめの防止につなげる。 ・心身の不調を訴える生徒や、学校不適応傾向を示す生徒が増加傾向にある。その実態と主たる要因を把握し、時期を逸することなく適切な支援を行うとともに、教育相談を保護者・全職員で行うという意識を高め、問題発生の予防を図っていく必要がある。 ・健康な生活を意識する態度を養うとともに、新型コロナウイルス感染症予防のために、適切な環境の保持および手洗い・咳エチケットの励行など基本的な感染症対策の徹底を図る必要がある。	
達成目標	①生徒の実態把握を目的とした声がけ	②心身の不調を訴える生徒への適切な対応と職員等の意識の向上 ③感染症に対する生徒への働きかけ
	①登校時の校門指導週間 年6回	②カウンセリング等 年30回以上 教職員等対象研修会 年2回以上 ③HRにおける啓蒙活動 年2回以上
方 策	・登校時の挨拶・服装・交通安全指導により、規範遵守の自覚を促す。 ・街頭での交通マナー遵守の指導や1年生対象に交通安全教室を実施する。 ・「情報モラル・セキュリティに係る講演」や面接・集会での注意喚起により、トラブルの未然防止に努める。 ・被害状況調査を実施し、生徒の現状を正しく把握する。	・生徒、特に心身不調の生徒の理解に努め、スクールカウンセラーや特別支援巡回指導員と教師間、また家庭、関係機関との連携を深め、個々に応じた適切な支援を行う。 ・教員研修会等により、生徒や保護者との良好な関わり方を学ぶことで、生徒に寄り添いながら信頼関係を構築していく姿勢を醸成する。 ・コロナウイルス感染防止に関する学校での新しい生活様式について、HR等で意識付けし、実践する。
達 成 度	①年5回実施 ・登校時の校門指導週間は年5回実施した。また、体育大会や文化祭の準備期間には下校指導も行った。	②カウンセリング等 年30回実施。 教職員等対象研修会、支援会議、ケース会議など状況に合わせて実施した。年7回実施。 ③2回以上実施 ・感染状況に合わせて注意喚起を行った。
具体的な取組状況	・登校時の挨拶・服装指導では、生徒が自覚を持ち、自ら服装等を正すことを念頭に置き指導を行った。	②不適応行動に対応するよう、学年、他分掌と連携を取りながら、情報共有、対応策の検討、実施を行った。 ③換気、会話時のマスクの着用を徹底した。
評 価	B	A
	・先生方の協力を得ながら実施した。生徒個々への指導・対応を工夫していくことが必要である。	②問題を抱える生徒への対応について、早めに関係分掌との連携を図り、協力を得て実施した。
学校関係者の意見	不登校傾向の生徒には、学業面での苦しさの原因のものも多いのではないかと。SCや外部機関との連携を今後も進めてほしい。	
次年度へ向けての課題	・挨拶・服装については継続的に実施するが、特に自転車通学者に対しての交通安全指導についても努力したい。	②年度当初に、予防的教育相談についての教職員研修会を実施したい。 ③手指消毒、換気、会話時のマスクの着用等の感染対策を継続していく。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和4年度 高岡高校アクションプラン — 4 —		
重点項目	特別活動	
重点課題	・学習と部活動の両立、学校行事の充実、ボランティア活動 ・読書活動の推進と生徒図書委員会活動の充実	
現 状	・概ね部活動は活発に行われており、上位大会に出場して活躍する生徒がいる一方で、活動実態の少ない生徒も見受けられる。また、学習を理由に途中退部する生徒も増えてきており、両立した活動が難しくなっている様子が見られる。 ・体育大会、文化祭、球技大会などの学校行事は、クラス内の交流や団結力を高める良い機会になっている。しかしながらコロナ禍のため、種目の変更や、日程の短縮、やり方の工夫をしながら運営を行っている。 ・ボランティア活動としては、学校周辺の清掃奉仕活動や富山マラソン運営協力等に多くの生徒が参加している。 ・読書への意欲は高いが、学習や部活動などのために時間の制約を受けがちであり、読書量、来館者ともに生徒による格差が大きい。日常的に読書に親しむ習慣を育むために、普段から図書館へ来館するよう、より一層、教科との連携や蔵書の充実、推薦図書の拡充が必要である。 ・図書館の利用者を増やすため、生徒図書委員会の活動を活発化し、読書以外の面においても図書館に対する関心を高めたい。	
達成目標	①部活動・学校行事に対する充実度や 結果に対する満足度の向上	②図書貸出冊数の増加 ③ホームルームでの図書館利用
	①充実度や結果に対する満足度 70%以上 ①ボランティア活動への参加者のべ900名程度	②図書貸出冊数 3,000冊以上 ③ホームルームでの図書館利用 年6回以上
方 策	・部活動の活動計画を作成し、大会や発表などの目標に向けた計画的で質の高い活動を目指す。 ・適切な休養日を設定し、密度の高い効率的な練習ができるよう指導する。 ・学校行事では感染防止対策を講じ、会場や日程を見直す一方で 内容をより充実させることができるよう工夫する。 ・アンケートを実施し、充実度や満足度を確認し指導に役立てる。富山マラソンのボランティア以外にも各種活動に積極的に参加する。	・文化講座と読書会を、合計3回開催し、図書館の利用機会を増やす。 - また、その企画運営に図書委員を積極的に関わらせるとともに、学級文庫を管理させて、クラスの読書活動の推進役であるという自覚を促す。 ・ホームルーム活動での図書館の利用方法を提案し、図書委員を中心とした図書館でのホームルーム活動を推奨する。
達 成 度	①部活動・学校行事に対する満足度 部活動 満足度 78.0% 昨年77.3% 体育大会 満足度 89.8% 昨年83.9% 文化祭 満足度 85.7% 昨年— 球技大会 満足度 83.5% 昨年83.6% ②ボランティア延参加者 755人 ・舍外清掃活動 518人+80人 ・富山マラソン 55人 ・支援学校交流会 102人	②4/1～12/31の貸出冊数 2,240冊 (R3同時期 2,840冊) →1月の貸出冊数が増えているので、年度末までに目標に近づけたい。 ③1年間のホームルームでの図書館利用 7回 (R3 5回)
具体的な取組状況	・体育大会種目の改革 ・支援学校とのリモート交流会実施	・図書館だより、推薦図書、新着図書の、 掲示等による広報活動 ・ホームルームでの図書館利用への呼びかけ
評 価	B	B
	部活動がほぼ通常に戻り、満足度は維持できている。学校行事も充実感のある活動ができた。支援学校交流では会話やクイズを楽しい雰囲気の中で実施できた。	・広報活動等が奏功したのか、現時点（1/27）で、2年生3年生の貸出冊数は昨年度より増加しているが、1年生の貸出冊数が減っている。原因や対策を検討中。 ・ホームルームで図書館利用するクラスが増えた。 ・その一方で、授業や総合的な探究の時間、課題研究等での図書館利用が昨年度より少ない印象。（タブレットの利用による影響か。）
学校関係者の意見	部活動の活性化の一助として、キャプテンを中心に科学的な時間の使い方を生徒とともに考える機会をPTAでも協力できたらよい。	
次年度へ向けての課題	・ホームルーム活動の活性化 ・部活動、行事等満足度の維持向上	・1年生の図書館利用（貸出）を増やす方策の検討。 ・授業での図書館利用、書籍を利用した探究活動の推進。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和4年度 高岡高校アクションプラン - 5 -

重点項目	その他	
重点課題	・グローバル・リーダー育成のためのプログラム企画 ・保護者や同窓会との連携	
現 状	・グローバル・リーダーの育成のため、県内の大学や企業・外部機関等と連携を図る必要がある。また、探究活動の実践と学力向上や進路実現につなげるとともに、普通科における「総合的な探究の時間」のあり方を検討し実践する必要がある。 ・本校に対する保護者や同窓会、地域の期待は大きい。PTA総会や保護者対象の各種研修会への参加率は高い反面、保護者からの要望にも応える必要がある。また、本校教育活動の広報を一層推進する必要がある。	
達成目標	①課題研究や探究活動における、大学や企業・外部機関との円滑な連携	②学年研修会等の出席率向上
	①大学との連携 年3回以上 企業・外部機関との連携 年4回以上	②学年研修会等の出席率 70%以上
方 策	・大学等との連絡を密にし、また学年等と連携を図りながら、探究活動等が進路実現等につながる実効性あるものになるよう、内容の改善・充実を図る。 ・海外大学と連携した研修等を通して自己発信力などの能力を身につけさせる。	・保護者対象の研修会等について、保護者の意見も反映し、工夫を重ねていく。 ・PTAだより等の広報パンフレットの掲載内容を工夫し、幅広く本校教育活動の紹介に努める。
達 成 度	①大学との連携 年8回 企業・外部機関との連携 年9回	②PTA学年研修会出席率 63%
具体的な取組状況	①2年探究科学科の課題研究に対する指導 年3回 2年普通科総合的な探究の時間に対する指導 年9回（大学5回、企業等4回） 1年探究科学科 立山実習 2年探究科学科 校外実習 （高志の国文学館・富山県総合教育センター） エンパワーメントプログラム 1年探究科学科 科学探訪	②・PTA学年研修会 3学年 7月実施 2学年 10月実施 1学年 10月実施 ・昨年は一部各教室にリモート配信での実施だったが、今年は蛍雪館ホールおよび第1体育館で一斉に開催できた。
評 価	A	C
	昨年に引き続き、普通科2年生の総合的な探究の時間では、企業や外部機関との連携を図り、生徒の探究活動を行うことができた。 海外研修は中止になったが、代替案で行ったエンパワーメントでは30名の生徒が参加し、グローバルリーダーについて考える事ができたことは収穫であった。 探究科学科については、課題研究や体験学習がほぼ予定通り実施できた。	学年研修会および同日開催の教育相談会講演会に多数の参加があり、効果が見込まれたようだ。 また、体育大会の保護者入場を一部制限したが、保護者の要望を生かし、3年生の保護者を対象に時間差で見学を許可した。さらにその模様を収録し、ネット配信できた。いずれもPTA役員を中心に運営していただいた。
学校関係者の意見	総合的探求の時間の活動について、保護者に対しても重要性を理解してもらえうように、PTA側から発信する機会があってもよい。	
次年度へ向けての課題	TKEの活動については、今年度の活動を踏まえて次年度を計画したいと思う。2年理数科学科の課題研究については新科目「理数探究」の実施について教職員への周知徹底を行って行きたい。	体育大会見学の事例のように、保護者の意見の収集に努め、学校への理解、協力を求めていきたい。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)